

避難の地域特性に 応じたマニュアルを整備

91箇所の避難所に導入

大田区では、区内91箇所の避難所にラップオンを導入しております。

3.11(東日本大震災)のあと備蓄の種類と数量の拡充を図り、ほぼ計画通りに揃えました。しかし、時代と共に製品が進化しておりますので、さらに備蓄の拡充を図り、その中の1つとして、ラップオンを導入しました。

大田区の避難所では、地域ごとに地震(火災・倒壊)・風水害・土砂災害など様々な災害のリスクを抱える地域特性に応じたマニュアルを整備しております。ラップオンの全体的な捉え方としては、要配慮者向けに導入していますが、地域事情や必要に応じて使用してもらえればと考えております。

元々の感染症対策に加えて、更に拡充していく

避難所等における感染症対策として、消毒液やラップオンなども備蓄しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、アルコール消毒液やマスク等を91箇所の避難所と4つの帰宅困難者一時滞在施設に配備しました。

今後も感染状況に応じて備蓄物品の精査を進めてまいります。

Interview



総務部防災危機管理課
防災危機管理担当
係長
平山 大輔 様

総務部防災危機管理課
防災危機管理担当
山田 祐輔 様



市役所所在地 〒144-8621 東京都大田区蒲田五丁目13番14号

人口 □ 728,703人(令和2年11月1日現在)

地勢 西北部の丘陵地帯と東南部の低地に二分され、丘陵地帯はいわゆる武蔵野台地の東南端にあたります。低地部は、海岸や多摩川其自然隆起と堆積によってできた沖積地と、それに続く埋め立て地からなっています。

海拔は、田園調布付近が最高で42.5メートル、南東に向かって次第に低くなり、低地部の高いところで約5メートル、海岸線や埋め立て地では約1メートルです。